

和紙だより

目次

越前和紙への提言 喜多俊之さん
レポート 和紙文化講演会
灑き場探訪 山伝製紙株式会社
和紙ミニコーナー
情報欄

44321 頁



■喜多俊之(きたとしゆき)

1969年よりイタリアと日本で活動を始め、家具・家電・日用品・ロボットに至るまで、世界各国、分野を超えて多くのヒット商品を生みだしてきた世界的デザイナー。その多くがニューヨーク、パリ、ミュンヘン等、世界有数のミュージアムにコレクションされている。40年前から日本各地の伝統工芸・地場産業の活性化にも継続的に関わり、現代の都市生活に活かす伝統工芸品の開発に手腕を振る。1970年発表の和紙照明器具[TAKO]は、世界的にも注目を浴び、以降の[KYO][PAO]、最近の[AWABI]でも和紙の素晴らしさをグローバルにアピールし続けている。

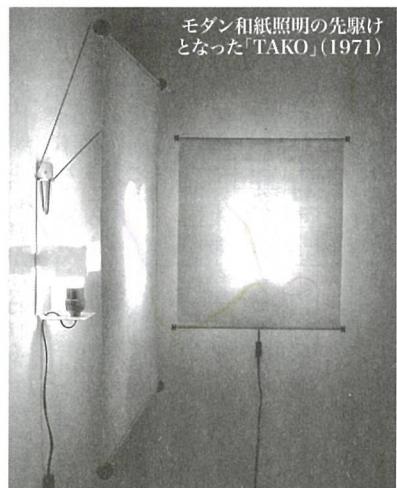
越前和紙への提言

■喜多俊之さん(デザイナー)
「暮らしの荒廃が伝統産業を壊している」

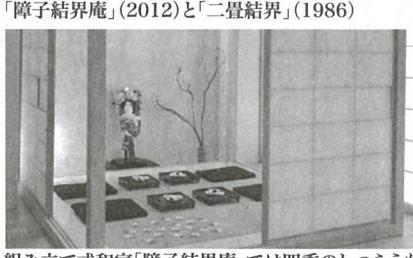
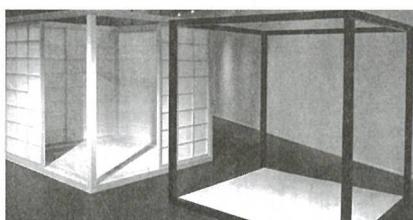
●市場がないから売れない
伝統産業の物が売れないのは、市場がないからなのです。

私が最初に美濃の和紙職人である古田行三さんに出会ったのは、イタリアに渡る直前の一九六八年でした。「一度目に訪れた時、古田さんは喜多さん、もうやめようと思うんですよ：売れないし…」とおっしゃっていた。イタリアに渡つてプラスチックの照明器具などをデザインしていましたが、僕には思いがあつて、和紙の照明器具(TAKOのプロトタイプ)の試作を作つて当時デザインの仕事をすることになつたミラノの照明メーカーの社長に見せたら、すごくきれいな光だから採用すると言わされた。その後、古田さんの所にそのイタリアの会社から大量注文が入つたのです。そうか! 使えば、つまり市場があれば、伝統産業は復活すると思つたのです。当時このTAKOはドイツやイタリアでは売れたのですが、日本ではさっぱり売れなかつた。日本はそれどころではなかつた。国を挙げて経済の復興に忙しい時代でしたから、住環境の整備にまで手が回らなかつた。電気代の安い丸い蛍光灯で充分だつた。そのうちに、狭い家の物があふれ、個室と称した細切れの部屋は殆ど納戸と化し、それに受験地獄などが拍車をかけ、家の中に人を呼ばなくなつた。住まいというのは本来、交流場所なのです。お客さんを閉め出して家族だけでいいとなると、朝から晩まで普段着だけでもいい、季節のしつらえや祭事を一緒に楽しむ空間もなくなります。人が集まらない、そんな中に伝統産業の入る

●暮らしを取り戻す「リノベッタ」構想
五年前に、リビング&デザインという国際見本市を大阪で創設し、そこで二年前に日本の伝統産業を復活させるために「リノベッタ」というプロジェクトを立ち上げました。平均的な広さの七十平米くらいのマンションを、リノベーションで、素敵なお暮らしを取り戻しませんか? という提案です。結局、伝統工芸が売れないのは、使っていないからで、気軽に人を招きたくなるような使う現場をもう一回作ろうとしているのです。和室は、割り切つて家具にしてしまいました。移動もでき、折りたためる「障子結界庵」という組み立て式和室は、檜と障子と畳で構成し、中で季節のしつらえやちょっとしたお茶会もできます。窓はカーテンではなく障子にすれば、断熱効果もあり、省エネになります。家の真ん中にキッチン&ダイニングスペースを配し、大きなテーブルには多くのお客様を招くことができます。二千所帯あるといわれるこういった部屋を小さく仕切つたマン



余地なんてないので。東京をはじめ、特に大都会で、伝統工芸の受け皿である市場「暮らしの現場が荒廃しています。



●これからの職人に必要なこと
日本の伝統工芸の美は、極められているということで、世界的にも大変評価が高い。しかし、これを普及するには、もう一步研究する必要があります。やはりいい物をどうしたら適正価格で作ることができるかということですね。

ショーンの暮らし、リノベーションで驚くほど変わつて、人生が変わります。子供が巣立つた夫婦の老後には、友達が財産です。昔の暮らし方を知らない子供にも、四季を取り入れる日本のいい伝統や物を日常体験させることができます。人と話していると犯罪なんかに走るわけがない。私は介護ロボットの開発にも携わっていますが、このリノベッタとドッキングさせば、隔離されることのない環境でみんなと楽しく過ごせる。家具や器も料理も価格だけでもいいのではなく、良いものを選ぶ内需拡大の器としての住まいを作るわけですから、これは日本の国にとっても大きなテーマなのであります。現在全国で、リノベッタのネットワーク作りしようとしています。住まいを素敵に暮らすということを復活させれば、伝統産業は必ず復活します。

年ほど前から、トロロアオイなども検出できるようになり、煮熟剤、叩解、抄紙技法、サイジングやドーサ、乾燥が保存性に与える影響も徐々に解明されてきている。

和紙の主原料の楮は煮熟剤が保存に大きな違いをもたらし、木灰などのマイルドなアルカリでの処理が保存性のよい紙を作る。日本の楮の約七割は輸入に頼っているが、タイ楮などは油分が多く、苛性ソーダで煮熟せざるを得ない一方、国内産楮は、ソーダ灰で処理可能であるので、保存性のよい楮紙には国内産原料が望ましい。

越前の初代岩野平三郎が開発した麻紙は、日本画基材としてほぼ独占的な地位を確立する。数年前に、東京の

画商(丸栄堂)の淺木正勝氏等の提唱で、日本画を支える職人や表具師、紙の研究者等の協力により、土佐楮を原料とした

東京芸術研究室の
稲葉正満氏
●手から機械に置き換えた第一期

●手から機械に置き換えた第一期

山伝製紙(株)は、江戸後期に創業、明治初年頃より手漉きチリ紙製造を営み、昭和八年美術小間紙に転向、昭和三十八年、東京オリンピックの前年に手漉きから機械漉き一本に切り替えた。従業員二十五人、年商約一億。七代



社長の山口和弘さん YDS



息子の真史さん YDS

現社長、山口和弘さんにお話を伺う。

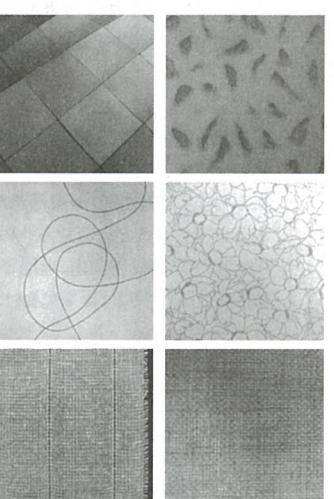
商品作りができるか否かでした。紙は素材産業でしたので、紙の坪量、紙幅、カット長は注文時に話題になつても、誰が使うのか、どう使われるのかは余り問題にならなかつた。売るのは問屋任せでした。しかし、現在、従来の販路は活かしながらも、ジャンルを超えた商品開発や技術開発、従来の流通とは違つたものの作り方に挑戦する時代に変わつてきました。

●海外ブランドのOEMが刺激となり

転機が訪れたのは三十年ほど前の一九八〇年代。和紙組合がサポートし、サンフランシスコ、シカゴ、ニューヨーク、フランクフルトなど、海外の見本市に出演した。その折に紙を見てくられたアメリカのインテリアブランドのデザイナーが新しい高級壁紙を開発するため、翌年当地を訪れ、山伝はOEM候補としてノミネートされた十社の中の一社に選ばれた。創業者が染色アーティストでもあるこの壁紙会社は、米国でも有数の質の高さとデザインセンスを誇るシカゴのマヤ・ロマノフという高級ブランドであった。

米国の壁紙市場には大きく分けて二つの市場があるといふ。一つはいわゆる一般住宅向け、もうひとつは「ハイクラス・レジデンシャル」といわれる高級ブティックやレストラン、カジノ、会議場やホテル、富裕層邸宅向けで、専属デザイナーがコーディネーターする高級市場である。訪れたデザイナーは、カジノのゴージャスな非日常空間をアピールし、マンハッタンの五番街の有名商家店に置いてある商

バラエティに富む面白い紙は海外でも人気



●ユーチャー直結で小ロットにも対応

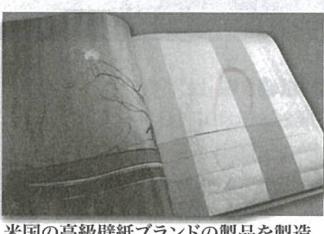
OEMで培つたノウハウを自社の「攻めの提案企画」に活かす、いわば第三期が山伝の現在の姿だ。従来の小間紙分野にも、意表を突く面信に繋がつた」と山口さんは当時を振り返る。

元々アルカリ性の紙であつても、ドーサの明礬をどれだけ含みやすいかで、加工後のpHが変わり、変色や劣化に影響することが分かつた。

まとめの総合討議の模様



第一期は、手で漉いたものを機械に置き換えた時代です。機械漉きへの転向が成功するか否かは、産地の得意分野を活かし、流通を活かす



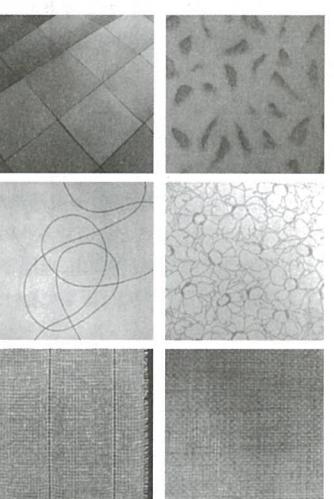
米国の高級壁紙ブランドの製品を製造

商品作りができるか否かでした。紙は素材産業でしたので、紙の坪量、紙幅、カット長は注文時に話題になつても、誰が使うのか、どう使われるのかは余り問題にならなかつた。売るのは問屋任せでした。しかし、現在、従来の販路は活かしながらも、ジャンルを超えた商品開発や技術開発、従来の流通とは違つたものの作り方に挑戦する時代に変わつてきました。

転機が訪れたのは三十年ほど前の一九八〇年代。和紙組合がサポートし、サンフランシスコ、シカゴ、ニューヨーク、フランクフルトなど、海外の見本市に出演した。その折に紙を見てくられたアメリカのインテリアブランドのデザイナーが新しい高級壁紙を開発するため、翌年当地を訪れ、山伝はOEM候補としてノミネートされた十社の中の一社に選ばれた。創業者が染色アーティストでもあるこの壁紙会社は、米国でも有数の質の高さとデザインセンスを誇るシカゴのマヤ・ロマノフという高級ブランドであった。

米国の壁紙市場には大きく分けて二つの市場があるといふ。一つはいわゆる一般住宅向け、もうひとつは「ハイクラス・レジデンシャル」といわれる高級ブティックやレストラン、カジノ、会議場やホテル、富裕層邸宅向けで、専属デザイナーがコーディネーターする高級市場である。訪れたデザイナーは、カジノのゴージャスな非日常空間をアピールし、マンハッタンの五番街の有名商家店に置いてある商

バラエティに富む面白い紙は海外でも人気



た歐州調の型染め紙などは、海外の和紙専門店や取扱店に好評だ。

最近は、機能和紙の分野で相談を持ちかけられることも多くなつた。

和紙の糸は、撚糸メー

カーと共同開発した。吸水性・対アレルギー性、

紫外線カット効果、消臭効果のある和紙纖維は、靴下、ウェア、バス用品を扱う自然派ブランドにも取り入れられている。導電纖維を滲き込んだ電気を逃がす導電シートは、静電気を嫌う乾燥剤などの包装材として利用される。伸びない・縮まない・水を含まないという合成紙は、乾いた後にも縮まない壁紙シートなどに使われる。

直に相談を持ちかけられるということは、あそこならできるだらうと信用くださつて、からだと思います。機能紙の開発にあたつては、ジャンル違いの知識や製造ノウハウが必要ですが、何から何まで自社で開発するというのは、

人材も資金もいるの

で、ネットワークと

いう形態で対処して

います。また、次に売

り込む商品のネタ

も一緒に考えれば幅

が広がります。新し

い商品を作つて売る

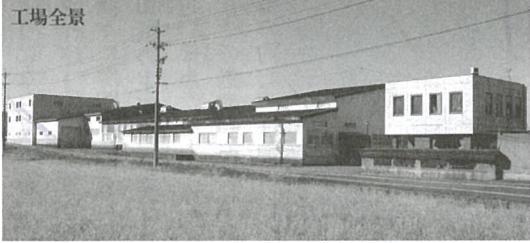
には、新しい枠組み

が必要です。よく「新

しいワインは新しい

樽に」といわれる所

以ですね。



工場全景

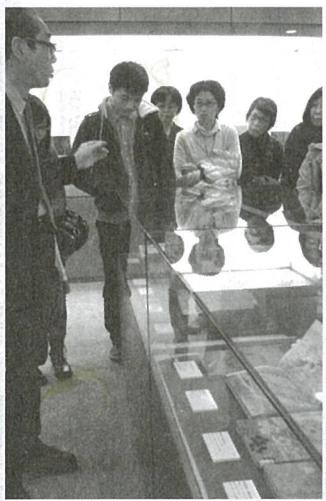


機能和紙の一例、抗菌作用のある和紙糸

の紹介文

■「本の装い百年 その変遷と魅力」

記念講演会開催



見ながら 説明を聞く参加者

情報欄

●イベント情報

■平成26年 越前和紙 祈願祭・滲き初め式

時:平成26年1月5日(日)午前9:30~

場所:卯立の工芸館(越前市新在家町)

■新年賀詞交歓会

時:平成26年1月5日(日)午前11:30~午後1:30

場所:生涯学習センター今立分館

■「紙の岡本」展

時:平成26年1月5日(日)~2月23日(日)

場所:卯立の工芸館(越前市新在家町)

※越前市岡本地区の昭和初期の様子と変遷をたどる展覧会。紙漉き道具や当時の見本帳、駅舎の看板や祭りの用具など約30点を紹介します。

●越前和紙の里(五箇地区)が「第26回公共の色彩賞」受賞

色彩を軸に、景観の向上をめざして活動する会「公共の色彩を考える会」主催の2013年度「第26回公共の色彩賞」に越前和紙の里(五箇地区)が選ばれた。福井県から選ばれたのは初めて。「越前瓦特有の銀鼠で揃った家並みと室外機カバーや水路の柵の色などに町並みへの配慮。紙の神社の歴史性を誇りに思い、地域色を大切にしている住民愛情が感じられる。」(審査評)が受賞理由。当地では、和紙組合・福井県・越前市・五箇地区まちづくり協議会が主体となって、和紙の里にふさわしい景観づくりと、将来にむけた和紙原料の確保を見据え、三権の苗50本を大滝地区の表通りに植樹するなどの取組を行っている。



■平成25年度紙博テーマ展IV「越前紙漉き唄」展

時:平成25年12月21日(土)~平成26年3月9日(日)

場所:紙の文化博物館(越前市新在家町)

※職人たちの生活に寄り添ってきた紙漉き唄を3つに分類し紹介する「紙の岡本」関連イベント。

■越前和紙展-和紙を気軽に使おう Vol.3

時:平成26年1月17日(金)~2月9日(日)

場所:ふくい工芸舎(福井市) ※展示、即売あり

■福井県(越前若狭)の物産と観光展

時:平成26年1月23日(木)~1月28日(火)

場所:東京新宿 京王百貨店 ※展示、即売あり

■東京ギフトショー 2014春

時:平成26年2月5日(水)~2月7日(金)

場所:東京ビックサイト東館 ※展示あり

編集後記

お正月ほど、和紙が大活躍する季節はない。新玉のしつらえを考えている時の楽しさといつたらない。心も落ちなくて手触りや美しい色に魅せられる若い人も多いとき。そういういえ、近頃、和物手芸が大流行なのだと。本でも買って、ゆっくりこたつで楽しみたい。(よ)